

図書紹介

◎東カリマンタンの熱帯雨林生態系 (GUHARDJA, E., M. FATAWI, M. SUTISNA, T. MORI and S. OHTA (Eds.), 2000, Rainforest Ecosystems of East Kalimantan : El Niño, Drought, Fire and Human Impacts, Springer-Verlag Tokyo, Ecological Studies 140, 330 pp., ¥11,000 円+税 (ただし Springer Tokyo で購入の場合)

1982～1983年にかけて、ボルネオ島東カリマンタンで四国の2倍もの面積に匹敵する360万haが焼失した森林火災が国際的な注目を集めたが、1997～1998年にかけて再び同地域は大規模な山火事に襲われ、回復しつつあった二次林にまたも焼損をもたらした。NOAA衛星で探索した結果、前回とほぼ同じ地域が燃えたことが確認された。国際協力事業団(JICA)とインドネシア国教育文化省のもとで、1985年から1999年までの15年間行われた熱帯降雨林研究計画事業は、この大規模な山火事のほぼ全容をカバーする期間、この地域の生態研究・林業研究を行い、副題にあるように東カリマンタンの森林生態系とエルニーニョ・南方振動の影響に基づく乾燥、山火事、人為圧力の関係に着目した基礎的知見を集積し、この地域の持続的な森林管理と利用を行うための提案を本書に取り纏めた。このプロジェクトにはインドネシア側からはムラワルマン大学、ボゴール農科大学、ガジャマダ大学の研究者、日本側からは森林総合研究所や多くの大学等から派遣された長期、短期のJICA専門家が参画し、多分野にわたり現地に密着した精力的な調査研究が行われた。本書に寄稿した日本人研究者は19名に上る。このSpringer社のEcological Studiesシリーズは科学的な価値の高いものとして国際的に評価されている学術誌であり、本書の出版はJICAの研究プロジェクト成果が世界的にその価値を認められた金字塔的意味を持つ。この本は、Part 1はカリマンタン地域の森林と林業、気候、乾燥、土壌などの概要、Part 2は実測データに基づく土壌の実態や森林土壌劣化過程の分析、Part 3は山火事や乾燥による森林の変遷や植物の適応及び生態特性、森林昆虫の変動、Part 4は人間活動を中心として、先住民ケニャ族の焼き畑技術、焼き畑後の森林遷移、非伝統的焼き畑や商業伐採による植生変化機構、山火事による森林変化に対する野生猿類の縄張りの変動、Part 5は森林再生技術と持続的な森林管理の方策として菌根菌の情報や環境と樹種特性及び育林特性、森を利用する人びとの地域文化を考慮した参加手法、本地域における森林生態系の変動に関与する情報や技術の自然科学的、社会科学的知見に基づいた総括的な見直し、から構成されている。(桜井尚武)